

市議選・総選挙で共産党の躍進を

鶴岡・田川地区日本共産党後援会が総会開催

鶴岡・田川日本共産党後援会総会が9日、市勤労者会館で開催されました。

市議選予定候補ら訴え

長谷川剛・党地区委員長（衆院選山形3区予定候補）、関徹県議、

今秋の市議選予定候補の坂本昌栄さんと3人の現職市議、田中晃三川町議、工藤範子庄内町議が挨拶し、自民党政治の転換と党躍進を訴えました。

総会では地域や職場などでの歌声喫茶や野球観戦など楽しい交流や、沖繩平和ツアーや議会傍聴、市政、県政

を語るつどいなどの後援会活動が報告されました。

2017年度の活動方針では、

①鶴岡市長選挙、及び市議選勝利めざし、後援会として奮闘、総選挙での日本共産党躍進に向け、日常的に取り組む。

②各単位後援会のつどい開催や、会員の要求に応える各種行事に取り組む。

③単位後援会や会員が参加する「後援会ニュース」を発行するなどを決めました。

「ROSA鶴岡」結成
日本勤労者山岳連名の支部にあたる「鶴岡地区勤労者山岳連名」の結成総会が8日、市第3コミセンで行われました。

総会では、設立の経緯と趣旨、会則、今年度の山行計画、会費、予算などを決め、名称を「ROSA鶴岡」としました。

今年度は、蔵王、月山、摩耶山、湯ノ沢岳、金峰山縦走、鎧ヶ峰の登山を計画しています。

会長に前川勝朗氏、事務局長に長南厚氏を選出しました。

勤労者スキー協議会から加藤太一県副会長が来賓で参加しました。

10月の鶴岡市長選

皆川治氏が出馬表明

8日、皆川治氏（42歳）が鶴岡市総合保健福祉センターで記者会見し、10月に行われる予定の鶴岡市長選挙に出馬すると表明しました。

出馬会見の報道によれば「新文化会館の整備・利活用の問題、ごみ処理をめぐる近隣自治体との関係など、鶴岡市政への信頼が揺らいでいる」と指摘し、市民の声と対話を重視する姿勢を指すとしてい



日本共産党地方議員が挨拶。右から関徹県議、加藤太一市議、加藤鋳一市議、菅井巖市議、坂本昌栄市議予定候補、工藤範子庄内町議、田中晃三川町議

最先端研究と県市の支援

☆10日（火）、鶴岡市先端研究産業支援センターで行われた、国立がん研究センター・鶴岡連携研究拠点「がんメタボロミクス研究室」の開所式に出席しました。

同センターと先端研がおこなうプロジェクトの事業費は5年間で約12億円とされ、国と県・市が半分づつ負担します。

市は3億5千万円を毎年支出している他に、産業支援センター設置など、バイオ産業集積をめざす事業にその都度支出、今回の事業もそうしたものの一つです。

☆先端研究のバイオ研究に注ぎ込



まれてきた金額は、県と市で百億円を越えました。

近年市は、支援の目的に「市民の健康長寿のため」「高校生始め人材育成」などを強調するようになり、当初の「産業振興と雇用拡大」を薄めているかのようです。

当日、慶応義塾総長が挨拶で述べたように、今回のプロジェクトも「人類に貢献する」ことが目的であり、鶴岡市の目的とは落差があります。多額支援が永久に続けられることの妥当性が問われています。

（県議 関 徹）

就学援助の入学準備金拡充 を文科省が通知

国会と市議会で共産党議員が要求

文部科学省は就学援助の入学準備金の単価を今年度、小学生で2万4700円から4万6000円に、中学生で2万3550円から4万7400円に倍増しました。

さらに、支給は小学校入学前も可能だとする通知を3月31日、都道府県教育委員会に出しました。

「要保護者」の費用の半分は国庫補助ですが、入学前支給は対象外でした。

共産党議員の質問で
予算措置実現

これを突破したのが、国会での日本共産

これを突破したのが、国会での日本共産
制度です。

＊文部科学省が不す要保護児童生徒援助費補助金単価です。自治体によっては支給されない費目もあります。

費目	小学校	中学校
入学準備金 (新入学児童生徒学用品費等)	4万600 (前年度は2万470)	4万7400 (前年度は2万3550)
学用品費	1万1420	2万2320
通学用品費(第1学年を除く)	2230	2230
校外活動費	宿泊なし	2270
	宿泊あり	6100
体育実技 用具費	柔道	7510
	剣道	—
	スキー	3万7340
	スケート	1万1590
修学旅行費	2万1490	5万7590
通学費	3万9290	7万9410
クラブ活動費	2710	2万9600
生徒会費	4570	5450
PTA会費	3380	4190
医療費(中耳炎などの指定された病気)	1万2000	1万2000
学校給食費(完全給食)	5万3000	6万2000

安倍政権が決定した「子どもの貧困対策大

身近にあった、被曝体験 核兵器廃絶の声を地域から

映画『放射線を浴びたX年後2』特別講演会

原水爆禁止田川地区会議と原水爆禁止田川他地区協議会の共催による『放射線を浴びたX年後2』の映画鑑賞を深めるための特別講演会が1日に開かれ、日本共産党議員団も参加しました。

東京都江東区夢の島にある第五福竜丸展示館の安田和也主任学芸員が「地球の上に市の灰ふるく水爆の時代と

網」でも、同制度の活用や充実を図るとしています。

本市の就学援助に含まれていない、クラブ活動費・生徒会費・PTA会費については、昨年9月議会の菅井巖議員の質問に対し、「教

育の機会均等を実現する上で、これらの追加が必要との認識から、調査検討を進めて参りたい」(教育委事務局参事)と答弁しています。

被災船」と題して講演。アメリカによる水爆実験で1954年3月のビギニ事件で被曝した第五福竜丸の実態と、それ以外にも加茂の尾形海幸丸など全国で数隻が被曝した事実を報告しました。

特別発言として、尾形海幸丸の船長だった(故)本田昭一さんの息子、由紀夫さんから「父は当時の事を何も語らなかつた。当時の状況を知り驚いている」と語りました。

また、1989年に庄内地域の高校生たちと尾形海幸丸の実態を調査した元教師の小泉美英子さんも当時の状況を報告しました。

「新たな原発神話」を作り原発再稼働や原発輸出を進



第五福竜丸被曝事故の写真を示しながら講演する安田氏